

第一回「防災スペシャリスト養成」企画検討会 議事概要

1. 検討会の概要

日 時：平成 26 年 7 月 1 日（火）10:00～12:00

場 所：中央合同庁舎 8 号館 5 階 共用会議室 A

出席者：林委員長、牛山委員、大原委員、国崎委員、黒田委員、重川委員、丸谷委員、
日原統括官、柳橋参事官、中林教授

2. 議事概要

事務局から平成 25 年度の企画検討会報告、検討会設立趣旨説明等ののち、林座長より、「誰が研修の講師をしても、一定程度の品質を維持できる研修体系とすることを目指して、検討を進めていきたい」との挨拶があった。

続いて、議題ごとに各委員による意見交換を行った。主な意見等は次のとおり。

(1) 議題 1 「企画検討会」における検討事項及び検討の流れ

- 「防災スペシャリスト」が実施する防災活動として整理した 26 の活動については、検討を進める中で、26 でよいかどうか考えてよいのではないか。
- 標準テキストの利用対象者を考えておくことが重要。内閣府で活用することを基本に、HP からダウンロードして誰でもが使えるようにするのは良い。一方、その品質や能力評価の方法など検討すべき課題もある。
- e ラーニングの整備にあたり、単純にコンテンツを HP に掲載するものか、学習状況を管理ができるものとするか、あるいは学習者の質疑応答に応えることまで考慮するかなど、学習管理のあり方について十分検討した方が良い。
- 総務省消防庁の「e カレッジ」は、作成の初年度、誰でも見ることができるものとして整理し、2 年目にグループ学習として使える学習管理システムを含めたものとして整理した。
- e ラーニングを、研修と組み合わせた活用をするかどうか検討した上で、設計する方が良い。座学と併用することを前提として整備する場合、予習で使える。
- e ラーニングは、時間的な制約を受けずに必要なコンテンツを示すことができ、また、長時間の動画を掲載できるなど、インターネットの持つ利点を活かして作ることができる。この利点を活かして整備すべき。

- eラーニングで予習しておき、研修は講師への質問や意見交換等を中心に運営するなど、eラーニングと研修を一体的に設計し、研修のアクティブ化をはかることも重要ではないか。
- 有明などに来ることができない人でも、必要なことを学習できる研修として、eラーニングの活用を中心とした研修の方法もある。
- 標準テキストの形態は、活用範囲や研修での活用方法によって変わるのではないか。講義の自由度をどの程度認めるかによっても、テキストの作成方針は変わる。
- 標準テキストは、実務を行うために身につけておくべき基礎的なことが整理されているもので、ミニマムコモンが整理されたテキストであればよい。
- 標準テキストの形態はパワーポイントとし、ボリュームのある文書ではなく箇条書きに整理された素材集のようなテキストとなればよい。
- また、標準テキストは執筆者を分担し作成するのではなく、事務局で案を作成し、検討会で漏れや誤りがないかチェック・改善しながら作成すればよい。
- 災害対応は、必ずしも一つの解となるとは限らない。このため、標準テキストの記載内容は、両論併記ができるようにしておくことも必要。

(2) 議題2「標準テキスト」整備計画の検討

- 標準テキストの作成にあたり、その主たる使い方を明らかにすべき。また、標準テキストを活用した講義の仕方についても考えておく必要がある。
- 標準テキストは、当面、有明研修で活用する事をメインの使い方とし、将来的には、多様な用途で利用できるように発展させればよい。
- eラーニングについても、段階的に発展させることで整備していけばよい。当面、今年度の研修講義をビデオ録画し、活用するなどでもよいのではないか。
- 研修は、講師と受講者が顔を合わせる絶好の機会であるため、テキストを読みあげるような授業ではないほうがよい。講義は、テキストに記載されている項目が理解されるように、講師の裁量の中で進められるのがよいのではないか。
- 研修の講師は、学識経験者より実務者を想定する方がよいのではないか。
- 前任者からの引継ぎでしか防災実務を学ぶ機会のない自治体職員にとって、特に基礎編が大事になる。学習できかつ試験を行う研修コースを確立するとともに、自治体に受講を強く進める取り組みを行うべき。

- テストを通じて受講者を評価するためには、受講生が記憶すべきものは、標準テキストに明記しておくべき。「覚えるべきこと」と「参考となること」との書き分けなども必要ではないか。
- 防災の取組として、やるべきことが「明確に決まっていること」と、やるべきことに対し「意見の分かれること」とを明記した方が良い。
- 科目によっては、テストしやすいものとそうでないものともものがある。必ずしも科目ごとにテストをするのではなくてもよいのではないか。
- テストは、穴埋め型、選択型、自由記述型を組み合わせるなどの工夫も必要。
- 標準テキストに記載される事項は、講義時間に応じた分量・内容として作成する必要があるのではないか。
- 標準テキストは、過去の災害から得られた教訓も入れるとよいのではないか。
- 標準テキストは、最初にテストを作ってからコンテンツを作っていく方向で進めるのがよい。テストバッテリーを作成し、企画検討会でその評価を行い、テキストのコンテンツを作成する流れで進めればよい。
- 教材には、教科書の補助教材として、講師用マニュアル、学生用ガイド、テストバッテリーがセットになる。
- 標準テキスト案ができた段階で、それぞれの内容に即した専門家にチェックをお願いすべき。昨年度の講師などに依頼してもよいのではないか。
- 防災基本計画がベースとなっている目次構成案からは、BCPの取り扱いが分からない。BCMの観点も含めるべき。
- 各編構成はよいとして、目次項目はもう少し柔軟に整理してもよい。例えば、防災実務に係る基礎的な事項を学ぶための「防災基礎編」は、工夫を要する。

(3) 議題3「首長研修」資料の改善

- 防災の主流化や国土強靱化など、国で進めている防災対策の方向性を示したり、地方公共団体に求められていることを組み込んでもよい。
- 首長研修全体のプログラムの中での位置づけを整理の上、国として特に制度を中心として説明してはどうか。
- 首長の不在時でも適切な対応を取るための体制の必要についても示すとよい。
- 首長のタイプは、調整型やリーダー型など様々であるが、首長として取るべき「態度」について、具体的な事例を交えて学んでもらってはどうか。例え

ば、被災した自治体の首長同士の座談会などの発言録を読んでもらうようにするなど。

- 防災対策を進める上では、首長が平時からリーダーシップを発揮してもらうことも重要であることを示すべき。

以上